

平成 30 年度第 2 回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時	平成 30 年 11 月 22 日 (木) 15 時 00 分～16 時 30 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 4 階 404 会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順・敬称略)</p> <p>浅井 真嗣 小牧市医師会 在宅医療推進委員会委員長 磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター 高木 康司 小牧市歯科医師会 浅井 宏昭 小牧市薬剤師会 芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院院長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長兼患者支援センターセンター長 渡邊 紘章 小牧市民病院緩和ケアセンター部長 三谷 敏江 小牧市民病院患者支援センター入退院支援室室長 大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長 岡 良伸 小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 大橋 弘育 小牧市リハビリテーション連絡会会長 川合 直充 愛知県春日井保健所 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課長 尾崎 雅代 小牧地域包括支援センター 山本 格史 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 介護保険課長 西島 宏之 保健センター所長 江口 幸全 地域包括ケア推進課長</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 岩下 貴洋 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p>
傍聴者	0 名
配付資料	次第 資料 1：進捗状況報告シート 資料 2：平成 31 年度事業計画案

主な内容

<p>1 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) これまでの課題の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料 1：進捗状況報告シートを用いて、各委員より説明。 <p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p> <p>(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況</p> <p>高木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日、事務局から配付していただいた訪問対応表とアンケートの協力依頼であるが、これについ
--

ては、本年10月にサービス事業者連絡会を通じて配付し、20程度の事業所から回答を得ている。

- ・ 訪問対応表については、回数の違いはあるが、半分くらいの事業所に利用していただいている。
- ・ 5番、6番の口腔ケア等、研修機会については、事業所からの要望も伺っており、実施に向けて検討をしていきたいと考えている。
- ・ 訪問診療が必要な場合の対応として、かかりつけの先生に連絡する、もしくは、家族に任せている事業所が多い結果となった。
- ・ 中には、愛知県歯科医師会の在宅医療連携室を案内する事業所もあった。この事業は、県事業ということもあり、あまり周知をしていなかったが、意外と周知されていることを再確認させていただいた。
- ・ 3番の活動できる歯科衛生士に関しては、歯科の開業医に勤めている衛生士の方は、リハビリテーション活動支援事業などで、活躍していただくことが難しい状況である。
- ・ そのため、衛生士会を通して、現在、フリーで、そういった活動ができる衛生士を確認しているところである。
- ・ 本日、配付したアンケートについて、御出席の委員の方々にもご協力をいただきたい。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

浅井（宏）委員

- ・ 資料の記載のとおりであるが、訪問薬剤管理指導をやりたいと言っている薬局は一定数出てきてはいるが、実際に在宅を必要としている案件が薬剤師会に入っていない状態であり、それがコンサルできない状況となっている。
- ・ 比較的、難易度の高くないものに対しては対応している薬局はそれなりの数が出てきているが、麻薬や点滴の問題などについては、まだ整備がされていないところがあるため、引き続きの課題となっている。

浅井会長

- ・ この9薬局というのは、公表されていたか。
- ・ 麻薬のことについて、実際、小売業者間というのは、これは卸のことか。

浅井（宏）委員

- ・ リストは作成してある。
- ・ 薬局同士で卸が対応できないような時間帯に急遽麻薬が必要になった場合、通常は卸とのやりとりしかできないが、事前に申請し、届け出をしておくことで薬局同士で緊急時のやりとりができるというのがある。

浅井会長

- ・ 実際に、在宅医療を実施してきている中で、やはり困るのは麻薬である。
- ・ 休日や夜間に、お願いしないように事前に出すことが多いのが現状であるが、在宅をやっているとうとすると、どうしても状況によっては依頼を出さざるを得ないところがある。
- ・ ぜひ、薬剤師会の中で検討を進めていただけるようによろしくお願ひしたい。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

伊藤（里）委員

- ・ サービス事業者連絡会では、部会で研修を企画している。
- ・ 研修については、医療とのつながりができるように呼びかけをしており、多職種が一堂に会して学習する機会が徐々に増えている状況である。
- ・ 今年度は、4月から5回ほど研修を行っているが、その中でも感染症の管理、コグニサイズ、認

知症予防など医療と介護の連携を意識した内容を実施してきている。

- ・ 今後の研修については、各部会で継続して企画、検討し、専門職のネットワークがつながるような形を目指したい。
- ・ 課題としては、サービス事業者連絡会で実施する研修は、情報共有や知識を学ぶ場としては効果的だが、実務的な連携の構築に向けて困難ケースの事例等も、今後は取り組みたいと考えている。
- ・ こまきつながるくんを活用して、連携している事業所は増えてきているが、まだまだ登録自体、少ない状況である。
- ・ やはり、こうしたツールの活用についても、今後強化していけるように呼びかけ等も実施したいと考えている。

尾崎委員)

- ・ 居宅介護支援事業所が定期的に事例検討会を開催しており、地域包括支援センターも参加し、ケアマネジャーとの情報共有や連携を図る機会を設けている。
- ・ また、地域包括支援センターの中には、事業所との交流会を実施しているところもある。
- ・ 今後は、包括全体で事業所など専門職間の交流・情報交換の場ができるような事業を計画していきたい。
- ・ 課題としては、開催方法や内容を事業所の意見も取り入れながら検討し、事業所の負担にならないような配慮が必要だと考える。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理

磯村委員)

- ・ 新規開業クリニックを訪問し、情報収集を行った。
- ・ 平成 28 年度実施のアンケートに基づくものであるが、在宅医療・往診等の実施状況に関する情報については、市のホームページで公表しているが、今後、最新の情報に更新していく必要があると考えており、来年度計画していきたい。

江口委員)

- ・ 医療と介護の資源情報については、医療や介護の関係者、市民の方に必要な情報を提供するため、こまきつながるくん連絡帳に資源マップを構築するように調整をしている。
- ・ また、今まで紙媒体で作成してきた「医師とケアマネ一覧」についても、こまきつながるくんので機能するよう、追加調整をしている。
- ・ 今後に向けては、こまきつながるくんについて、市民向けと医療・介護の関係者向けとで分けながら、それぞれの機能を強化していきたいと考えている。
- ・ また、可能な範囲で、支援ツール、情報などについても、提供していけるようにカスタマイズをかけていきたいと考えている。

浅井会長)

- ・ こまきつながるくんについて、登録数が少ない状況であり、医師会としても登録だけは進めたい。

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携

磯村委員)

- ・ 地域ケア会議やサービス担当者会議には、参加できていない。
- ・ 地域包括支援センターとの定期的な情報交換等をする機会を設けられておらず、サポートセンターの役割などを明確化し、地域包括支援センターや医療・介護事業者との情報交換や連絡調整を行う機会を設けていく必要があると考える。

尾崎委員)

- ・ ケアマネジャーに、地域ケア個別会議を支援ツールの一つとして取り入れてもらえるように、その有効性を体感してもらえるように努めたい。
- ・ 先日の地域ケア個別会議において、訪問してもらえる薬局の情報がケアマネジャーまで伝わっていないという現状が分かった。訪問してもらえる薬局一覧など、ケアマネジャーにも啓発していく必要があると感じた。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携

磯村委員)

- ・ 医療と介護の連携のために、主任介護支援専門員で立ち上げた研修企画に参加させていただき、他職種を知ることができた。
- ・ 今後、ニーズに合った医療・介護勉強会を開催することにより、お互いの理解を深め、連携を強化したい。
- ・ 課題については、在宅医療・介護の推進に向けては、訪問看護とケアマネジャーの連携強化が必要であるとの意見も寄せられていることから、両者の連携を結びつけるため、勉強会だけではなくサポートセンターとして取り組む必要があると考える。

大野委員)

- ・ ケアマネの会としては、今年度については、薬剤師や訪問看護師等との情報交換会を行っていない。
- ・ 今年度は、市主催の多職種連携研修会が相互の連携を考える機会となっている。多職種連携が深まれば深まるほど、ケアマネとしては、今一度ケアマネジャーとしてのケアプランの作成、再アセスメントの視点など、基本に戻って勉強しようということ、今年度は3回開催をしているところである。
- ・ 多職種連携の情報交換や合同の研修会を行うため、それぞれ負荷がかからないように調整を行うということだが、今回の資料の中でもかなりの多職種連携の勉強会・研修会があるが、それぞれケアマネは選んで参加していると思っている。
- ・ 必ずやらなきゃいけない、ぜひやってもらいたい研修に関しては、こちらとしては提案をしていきたいと思っている。
- ・ 特に、訪問看護とケアマネジャーの連携は重要であり、今後医療・介護連携チームの中核と位置づけていくためにも、看護師とのより顔の見える関係づくりをしっかりとしていきたい。

岡委員)

- ・ 今、大野委員が言われたように、今後、訪問看護とケアマネジャーの連携は、絶対に欠かせないと思っているが、お互いに理解し合わない、うまく連携がとれないと考える。
- ・ 自社でも、連携に向けて、勉強会はやるのだが、お互いを心底知り合わない、どう活用するのか、どう支援していいのかというのが、歯車が狂っているような感じではあると思っている。
- ・ 特に訪問看護というのは、介護保険の点数が高い分、アンケートの意見などでは、訪問看護は高いからということで片づけられている部分もあると思う。
- ・ そういう意味で、もっとお互いが自分たちの強みと弱みというのを共有していく場をつくっていただければ、極力時間を割いてつながっていききたいという声は、訪問看護部会で上がっている。

浅井会長)

- ・ 在宅医療・介護にとって、訪問看護とケアマネは中核中の中核だと思っている。
- ・ ぜひとも、少しずつ途切れず、良い関係を構築しながら、発展させていただきたいと思っている。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援

磯村委員)

- ・ 副科紹介マニュアルにより、今年度は、耳鼻咽喉科に3件、眼科に1件を紹介した。
- ・ 副科の対象拡大に向けては、10月には今後の検討として精神科へ1件ツールを活用し、対応した。

浅井会長)

- ・ 副科については、少なくとも精神科は広げていきたいと思っている。
- ・ また、たくさんではないが、婦人科も何とかなっていくかという流れにある。
- ・ こうした中で、一番、数が多く、お願いしたいと思っているのは、皮膚科であるが、個別には対応してくれる診療所はあるが、サポート環境としてまとめるのに難渋している最中である。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(3) 摂食嚥下サポートチームの活動支援

磯村委員)

- ・ 摂食嚥下サポートチーム「小牧ごっくんサポートチーム」については、新たに専門職4名が参加し、現在25名になっている。
- ・ 10月23日に在宅医療・介護勉強会を開催し、73名の参加があった。
- ・ 今後、施設、事業所に向けて出張勉強会を開催していこうと考えている。
- ・ 課題については、チームが構成されたものの、具体的な活動展開に向けては、それぞれ通常業務を抱えた中での活動であることから、課題は多くある。
- ・ 出張勉強会についても、対象施設の選定や講師役となる人員の確保が課題である

浅井会長)

- ・ 食べる、飲み込むというのは本当に物すごい数の専門職が関わる。
- ・ これだけ専門職が関わる分野は、他に無いのではないかと考えている。
- ・ この分野で、小牧の中に困っているところは結構あると思うため、いかに広げていくかが課題であると考えます。

(エ) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(1) 病院とケアマネジャーの連携

田中委員)

- ・ 病院とケアマネの連携の中で、医療と介護の連携シートの活用をテーマに掲げてきた。
- ・ 昨年度、研修会を行った中で、連携をどのようにしているかという状況把握ができたが、今年度は、それぞれの活動に任せていて、その状況把握ができていないため、その活用状況の調査を行いたいと考えている。
- ・ 課題にもあるが、前回の介護保険法の改正と今回の改正の中で、入退院時の連携加算であるとか、退院・退所加算が拡充されたが、加算があるにも関わらず、加算を取っているケアマネが余りにも少ないというようなデータもある。
- ・ 具体的に何が加算を取ることをとどめてしまっているのか、少し話を聞くと、やはり手間だというところがケアマネの中にあるようで、その辺のところについて、調査を行う中で、今年中には情報把握をしていきたいと考えている。

三谷委員)

- ・ 平成30年4月から10月までで120件の連携シートが活用された。
- ・ 様式の異なる連携シートについて、先回にも話題になったが、当院では、問題無く取り扱っている。また、問題があれば、相談をしていきたいと考えている。

- ・ 患者の思いをどのようにつなげていくかについては、シートでは、書き切れないところがあるため、患者・家族を交えたところでどのように考えていくかを推進する必要があると考えている。
- ・ 当院では、訪問看護が、今年度で中止になり、今後は、退院前・退院後訪問を積極的に行い、在宅につなげていきたいと考えている。
- ・ 実際、ケアマネジャーや訪問看護の方が来ていただいたりということもあり、在宅につなげていくと言っているケースもあるのが現状である。
- ・ 課題については、連携する上では、患者・家族を含めて互いに理解ができる共通言語が必要であるというところで、分からない用語があれば教えていただけると、調整もしていきたいと考えている。
- ・ 先ほどの患者の思いをどのようにつなげていくのかというところであるが、今、市民病院内で、少し始めたところもあり、今後、相談ができればと考えている。

(エ) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICT の運用 (機能強化)

江口委員)

- ・ ICTの運用について、10月11日時点で登録施設が102カ所、登録患者数が62名という状況である。
- ・ 施設は、360余であり、まだまだ登録者を増やしていく必要があると考える。
- ・ また、4月から認知症の初期集中支援チームを立ち上げ、今、こまきつながるくんで2名の患者について、連携しているところである。
- ・ 介護支援専門員連絡協議会からの意見として、支援のケース以外にも研修の案内等で活用できないかという意見をいただいている。
- ・ 登録を増やしていく意味も含め、支援以外の案内や連絡の部分を実施するように検討をしているところである。
- ・ こまきつながるくに掲示していただければ、送受信の手間を省いたり、誤送信も防げると考えるため、そういったところで活用が広がっていくように、働きかけをしていきたいと考えている。

田中委員)

- ・ 介護支援専門員連絡協議会から提案をさせていただいたが、先日、こまきつながるくんで介護支援専門員のプロジェクトを構築した。
- ・ ただ、登録数が、120の会員に対し、39しか登録されていない状況であり、来年度総会において、連携ツールとして使っていこうということで、具体的に登録を進めていくというようなことも会としてしていく必要があると感じたところである。
- ・ また、介護保険サービス事業者連絡会の事務局として、今後は、事業者連絡会の部会でプロジェクトをつくってやれるといいなとも思っているが、先ほど、伊藤委員と話していたところでは、なかなか事業所によっては登録が難しいような現状もあるみたいである。

伊藤(里)委員)

- ・ 実際、数名の患者情報を、こまきつながるくんで、他機関、多職種がつながっているが、メンバーが固定されている状況はある。
- ・ ケアマネジャーが、登録を促されている状況にあると聞くが、事業所によっては、上の方の理解が得られず、登録できていないという話も少なくない。
- ・ 導入当初は、チラシなどが配布され、目にする機会もあったが、今は、そういった機会も減っているように感じる。
- ・ 先ほどから、なかなか、登録数が増えていないとの話もあり、行政からも事業所に対し、お話をさせていただけると良いかと考える。

浅井会長)

- ・ 江口委員、基本的に、国としてやっていけということになっていると考えればよいのか。

江口委員)

- ・ 愛知県について、ICTの基盤整備をすることで連携を進めていこうという方針でやっているのは事実である

浅井会長)

- ・ ICTをやられて、これはまずいとか、何かネガティブなものはあるか。
- ・ 自分としては、十数件、連携しているが、最初は大変かと思っていたが、毎日、十数名について、全て来るわけでもなく、5分ぐらいで終わる状況である。
- ・ これは、便利は便利である。
- ・ そのため、流れとしては、登録していただく方向で、少しきつめに、進めていく必要があると考えている。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営

磯村委員)

- ・ 平成30年4月から11月までに30件の問い合わせや相談があった。
- ・ 問い合わせ内訳としては、下のように病院、医療機関が11件、地域包括支援センター6件、介護事業者5件、市民6件、薬局2件であった。
- ・ 依然として、問い合わせ件数が少ない状況であることから、関係事業者や市民に対してサポートセンターの相談窓口としての機能を普及啓発していく必要があると思っている。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携

磯村委員)

- ・ 今年度から、医療に加えて介護も担当することになり、さらなる連携強化が必要と考えているが、具体的な取り組みはできていないのが現状である。

尾崎委員)

- ・ サポートセンターで企画している研修会の場合は、有効に活用できている。
- ・ 課題については、サポートセンターと地域包括支援センターとの定期的な情報交換などの場を設定できるといいのではないかと考える。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

田中委員)

- ・ 専門職が連携する中での地域の身近な居場所のサロンで巡回相談をするということで、地域支援合い推進員が中心となってサロンのほうへ出向き、相談を受け付けるというアウトリーチの活動をしてきた。
- ・ 事前周知を行うことで、住民の方々が、そういう相談員が来るということで、相談件数も少しずつ増えてきた。
- ・ この巡回相談については、地域包括支援センターと障害相談の相談員、市の保健師が協力し、西部と北里でモデル事業という形で行ってきた。
- ・ 住民が集まる場で身近な相談ができるということで、次年度以降も専門相談の窓口を全地域に広げていきたいと考えている。

- ・ 課題については、地域包括支援センターや障害相談という枠の中から出られない部分の生活相談としての受けとめというのが、相談員側の明確な認識が必要だというような意見や具体的にキャッチしたものをどういうふうにつなげていくかなど、課題点が少しずつ出てきており、その辺を精査し、次年度以降、どういうふうに行っていくか検討していきたい。

磯村委員)

- ・ 小牧第一病院での相談会は、平成 30 年 6 月で一旦終了となった。再開時期については未定。
- ・ 小牧市社会福祉協議会が主体となってモデル的に実施されているサロンの巡回相談に、市の保健師に同行させていただいて、サポートセンターの啓発活動と相談を実施した。

尾崎委員)

- ・ 定期的なサロン巡回に、地域包括支援センターの職員が半日単位で席を外すことが厳しい状況になることもあり、全市展開に向けては、専門職の数を増やすなどの工夫ができればと思う。

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

磯村委員)

- ・ 在宅医療・介護連携に関する各種研修会・勉強会については、計画的に実施できている。
- ・ 課題については、サポートセンター会議での意見や日ごろ連携している専門職の方のニーズを聞き取る中で、それぞれのスキルアップや連携を強化できるような研修会・勉強会を開催していく必要があると考える。

岡委員)

- ・ 訪問看護部会では、訪問看護を行っている中で、問題点や今後の課題というのも情報を出し合い、今後どう対応していくかと、提案していくかということと話している。
- ・ 今年度の研修会は、10 月 17 日に「冬の感染対策」ということで、現場における感染対策方法を具体的に、小牧市民病院感染認定看護師に依頼し、97 名が参加し、実施した。
- ・ そのことから、看護師が実施する研修会については、日ごろ、看護・介護・福祉に携わる方がケアの中で何に困っているのかということ洗い出し、それに対するレクチャーとしての研修を開催していく必要があるかと考える。
- ・ 例年、そうだが、どうしても看護部会でどうするか提案を主体的に持っていきただけであって、ボトムアップ的なところの意見がなく開催しているのが現状との意見も出ており、次回からはそういったアンケート等をとって、拾い上げていく必要があると考えている。

尾崎委員)

- ・ 他機関が行う研修内容等も意識し、重複しないように工夫をしている。来年度の研修計画についても、今年度中に確定しておきたい。
- ・ 課題については、5 者連絡会で、さまざまな機関が次年度の研修に向けて調整を図っているが、その内容をこまきつなぐるくん連絡帳で情報を共有できるといいと思う。

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護連携研修、勉強会等の実施

田中委員)

- ・ これまで、ケアマネから研修がいろんな角度から行われるということで、包括、ケアマネ連協、サービス事業者連絡会、サポートセンター、行政の 5 者で研修調整を行ってきた。
- ・ その中で、ケアマネに関する研修の日程調整を行ったものについては、ケアマネの会のホームページ上で日程表を掲げてきた。
- ・ 今後、タイムリーな課題を抽出し研修テーマ等を話し合っ決めていきながら計画をつくりたいと考える。

- ・特に、先ほども話があった訪問看護とケアマネが核になるという話もあり、その辺のところに必要な研修は何なのかというのを詰めながら計画していけると良いと考える。

大橋委員)

- ・リハビリテーション連絡会として、会員向けの勉強会を1回行うことができた。
- ・会員の中でも病院とかクリニックで働いている医療系と、我々みたいに介護系の者がいるが、意外と医療系で働いてる子が、「ええ、そんなことがあるの」みたいなことがあり、これは会員の中の医療と介護の連携をもっとやらなければいけないと感じ、今後、年2回は行っていきたいと考えている。
- ・この勉強会については、会員だけではなく、会員の関連した方の各職種の方にもお声かけをしていけたらいいかと思っている。
- ・ケアマネカレッジの勉強会は、例年、やらせていただいております、その年々で変化していくものに対応しながらやっていきたい。

磯村委員)

- ・同行訪問研修についてのアンケートを実施し、6医療機関が同行、見学可と回答をもらっているということで、今年度は同行訪問研修実施に向けては、アンケート調査を実施後、実際の取り組みについて検討中である。
- ・訪問先の同意、実施方法などを含めて、実施に向けて調整していく必要がある。

(キ) 地域住民への普及啓発

(1) 市民向け講演会の実施

江口委員)

- ・市民向けの講演会は、今年度は2月16日、まなび創造館あさひホールのほうで開催をさせていただく。
- ・今回の講演会では、できるだけ市民の方にわかりやすく楽しく伝えていけるようなものにしていきたいということで、皆様方に御尽力いただいている。

(キ) 地域住民への普及啓発

(2) 在宅医療・介護に関する普及啓発

磯村委員)

- ・普及啓発については、広報こまき、ケーブルテレビなどで周知した。
- ・先ほど、説明したとおり、サロン巡回に同行させていただき、啓発したり、サポートセンターの啓発グッズ(クリップ)を作成し、今後さまざまな機会を通じて配布する中で、啓発していく予定である。
- ・他市町では、定期的な会報誌などを作成している事例もあることから、普及啓発方法については検討していく必要があると考えている。

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み

高木委員)

- ・サロンへの出前講座として、春日井の歯科医師会が口腔機能向上をテーマにした講座とか、摂食嚥下機能訓練という講座を何年か前からやっていることを聞き、小牧でもどうかと思っていたが、なかなか人を集めるのが大変ということで、それならばということで地域包括ケア推進課と協議し、サロンへの出前講座という形でということで、昨年度は3回コースを2カ所でモデル的に実施した。
- ・今年度も、12月から4カ所のサロンへ出向くことになっている。

- ・ただ、現状として、サロンからの要望・希望待ちであり、数が増えてこない状況にある。
- ・定期的に一定数の要望が上がってくれば、歯科医師会の事業としても取り組んでいけるかと思っているが、残念ながら、要望されるサロンの数が少ないということで、増やしていくことが出来ればと思っている。

大橋委員)

- ・膝腰スッキリ体操であるが、前回以降、5回実施をした。
- ・「こまき山体操」については、4回ほど実施をした。
- ・こまき山体操の普及ということで、体操を地域でやっていただく活動というのが具体的に依頼があり、来年、1月に2カ所で行う予定となっている。
- ・リハビリ専門職の派遣については、5回実施をした。
- ・前回、なかなか伝えることが難しいということをお伝えしたが、単発で入っていき、溶け込んでいくということがなかなか難しいのと、人数的にも10名のところもあれば、つい一昨日は60人のところもあり、現場に行ってから、どうしたらいいかというのを判断してやらなければならないという、お題は決まっているが、その辺の難しさがすごくあると感じている。
- ・あと、サロンの立ち上げの手伝いというもの、これも来年の1月に1カ所依頼があった。

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) わた史ノートの普及・啓発

尾崎委員)

- ・サロン巡回や民協において、「わた史ノート」の啓発を行っており、各圏域の包括でも、少しずつ依頼が来ている。
- ・エンディングノートとの異なる点を強調し、受講後は、今の自分の気持ちが変わってもらうことの大切さやそれについて話し合えるきっかけづくりに役立つこと、また、これからの過ごし方を改めて考え直してみる機会になっている様子である。
- ・今後は、出前講座の後に振り返りの機会を設けて、このノートの使い方をより充実させるものにしていきたいと思っている。
- ・各包括が行う出前講座の詳細な内容について、統一されておらず、お互いに方法などを確認し、学び合うことも、必要かと思っている。

江口委員)

- ・出前講座の実績として3回、地域包括支援センターが主催した啓発は、6回実施している。
- ・また、中学生の社会科の副読本に、わた史ノートに関する記事を掲載いただけるということが決定した。この副読本をきっかけにして、学校の教育現場における普及啓発の充実化を図っていきたいと考える。
- ・また、学校の先生方の自主的な勉強会があり、こうしたテーマを入れてもらえないか、教育委員会のほうへ打診をかけている。

渡邊委員)

- ・副読本に掲載していただけるということが決まったようで、大きいかと思う。
- ・アドバンス・ケア・プランニングについて、かなり、国が推進している状況であり、病院側で疾病を発症してからアドバンス・ケア・プランニングに入る手前のところで、小牧市としては「わた史ノート」を活用して、そういう価値観の確認をしていく作業が必要で、そのために、こういう中学生というところからまず対象にしたと思うが、教育現場に入っていけるのはすごく大きい。
- ・これをきっかけに、お手伝いできる場所はお手伝いするので、がん教育等を絡めないと、結局在宅の最終的な現場のところでは子供に見せたくないからやっぱり在宅を拒否するとか、看取りのところは病院で隠したいという考えを変えていかないといけないと思うので、すぐに効果は出な

いが、必要などところだと思うので、またぜひ、協力してやっていけると良い。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(1) サポートセンター連絡会議

磯村委員)

- ・ 平成 27 年から 29 年度、3 年間継続してきた尾張北部医療圏在宅医療・介護情報交換会を 4 月から月 1 回、そのまま継続して開催している。
- ・ また、市地域包括ケア推進課と定期的な連絡会議を開催することになり、9 月から 2 ヶ月に 1 回実施している。
- ・ 課題については、今年度から、各市町のサポートセンターの状況も変わりつつあり、それらの状況を参考にしながら、事業を推進したい。
- ・ 連携シートの広域化などについては、広域的な視点の調整について、情報交換会に期待されているところであり、継続して協議していく必要があると考える。
- ・ また、必要に応じて提案等のために行政の同席などを求めていく必要があると考える。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(2) 広域連携の推進

川合委員)

- ・ 情報共有や検討のきっかけづくりとして、9 月に開催した尾張北部圏域保健医療福祉推進会議において、各市町から広域的な調整等の課題を話してもらった。
- ・ ICT を活用した情報の圏域での共有や、入退院の情報共有のための連携のシートが共有できるとよいという意見をいただいた。
- ・ 資料 1 に記載したが、先ほどから話があるように、それぞれの市町の中でしっかりと連携、ICT の活用を進めることが、まずは必要だと考える。
- ・ 尾張北部医療圏は、7 つの市町から構成され、医師会も 4 つある。
- ・ 将来的に 7 つの市町で共有できると良いが、様々な調整が必要になってくる。
- ・ 市民の方の中には、市町を越えて利用される方も多いかと思う。今後に向けて、その辺を含めて詰めていく必要があると考える。
- ・ 資料にないが、小牧市内で、来年 4 月の開設に向けて病院建設がされている。
- ・ 120 床の病床のうち、110 床は療養の病床ということであり、まさに在宅の医療や介護に関わってくる部分であり、小牧市内の 3 つ目の病院として、大きな資源ができるということになる。
- ・ こうした資源を医療と介護が連携をし、市民の方に有効に活用いただきたいと思っている。

(2) 平成 31 年度の事業計画案について

資料 2：平成 31 年度事業計画案を用いて、事務局より説明。

田中委員)

- ・ 質問ではないが、4 月の備考欄に書いてある事業者連絡会とケアマネの総会については、4 月 20 日を予定しているのと、6 月の介護展については 6 月 30 日に開催が決定している。

【閉会】

【次回会議開催予定】

- ・ 平成 31 年 3 月 28 日 (木) 午後 3 時から 小牧市役所東庁舎 4 階 本会議用控室